

別海町立西春別小学校 学校だより



からまつ No.20

平成31年3月15日発行 発行責任者 校長 金森 卓哉

春の広がり

校長 金森 卓哉

職員室の窓から空を見上げていますと、鳥たちの北への旅が始まっているようです。白鳥の群れであったり、雁の群れなのでしょうか、それほど多くない鳥たちが、群れをつくり北へと飛び姿が見られます。鳥たちは、厳しい冬をようやく乗り越え新しい春を迎えることができ、生まれ育った北の地へと向かうのでしょう。

学校でも旅立ちの季節を迎えております。卒業式に向けての練習が毎日のように行われています。教室から「呼びかけ」の声が響いてきます。体育館でも卒業生、在校生が練習を行っています。卒業生は、歩き方、礼の仕方、証書のもらい方、式辞や祝辞の時の間く姿勢、たくさんのことを教えられ練習を通して覚えていきます。卒業生にしてみると、毎年見ていて知っているつもりだったのが、卒業する立場に変わると知らなかったことがたくさんあることに気づくものです。在校生も、先生方の指導のもと、「呼びかけ」という6年生を贈る言葉の練習や合唱の練習と一生懸命で、練習が終わると大きな声とともに大きな伸びをしている児童もおります。それだけ集中していたことになります。卒業生も在校生も先生方も「みんな」でこの『卒業式』を創り上げようと練習を重ねております。

学校というところは、この「みんな」という意識が必要なところです。学習場面では、同じ学年の児童が教室と一緒に授業を受けます。一人だけ勝手なことをしてしまうと一緒に学習をしている児童に迷惑をかけることになってしまいます。「みんな」でその日の学習課題について話し合うことで、自分の気づかなかったことに気づけたり、一緒に勉強している人の意見で理解ができたり、友達の発表のお陰で自分の考えがさらに深いものになったりと、「みんな」で学習することは、一人で学習を進めていく時よりも学習に深まりや広がりができ、「みんな」で学習する楽しさも感じられるものです。

では、学校での生活面はどうでしょうか。休み時間、友達と遊ぶ姿を見ていると本当に楽しそうです。最近の子もたちの遊びは、「ケイドロ（警察と泥棒）」や「ドッチビー」、「ドッチボール」などです。「みんな」で楽しむようにするには約束（きまり）がないとうまくいかないことが解り、約束のもとで楽しく遊んでいます。学校の行事ではどうでしょう。運動会や学芸会では、みんなで力を合わせ1つになってがんばります。運動会では紅白に分かれて競い合います。チームが勝つと、同じチームの人達と喜び合う姿を見られたりします。学芸会では、みんなで協力して合唱や器楽、劇などを発表します。力を合わせることで素晴らしい音楽や劇ができあがることに気づきます。そういう体験ができる場所が学校だと考えます。「みんな」で活動する良さ・楽しさを学ぶことができるのです。

今年1年間、子どもたちに言葉について指導をしてきたつもりです。子どもたちが休み時間に体育館で遊ぶ様子を見ていました。女の子が、廊下から体育館に入ってきます。その時、遊んでいるみんなに、「入れて〜！」と軽く声をあげたのです。するとどこからともなく「いいよ〜！」という同じような軽い感じの声が返ってきます。こういう感じがいいと思いました。特にそう答えた側の人は、誰でも気持ちよく受け入れられる温かさがあるようでした。いい言葉は、そのような心があって出てくるものではないでしょうか。

今年は例年になく雪の少ない年。これで終わるのだろうかと思っておりました。やはり、そうはいかないようで11日（月）の夜からの湿った雪が大量に降りました。グラウンドに雪の山があったのですが、保護者の方が来て重機で崩してくださいました。これで、グラウンドの雪解けも早まり春も近くなりそうです。

この大雪が降る前は、積もっていた雪が順調に解けて校舎の壁側から少しずつ地面が広がっていく様子が見られました。道路の脇からも、木の根元の周りからも消えだし、春の広がりを感じていました。でも、私たちが住むこの地は、冬と春の間を行きつ戻りつしながら春を迎えるという、ちょっと春になるまで時間のかかる地のようなようです。

